

にっこの被覆資材による高温障害対策技術の実証

要約

なし「にっこり」の高温障害対策として、黒色の被覆資材を使用することによって、重度の日焼け及び果肉障害に対して一定の軽減効果が確認された。

○ 展示のねらい

近年、夏季の高温・乾燥により、なしにおいて果実の日焼けなどの高温障害が発生し、特ににっこりでは、令和5年度には廃棄される果実が多く発生した。そこで、被覆資材（写真1）による高温障害軽減効果を実証する。

写真1 被覆資材（黒）



○ 主な成果

表1 被覆資材による日焼け発生率の違い（満開後176日調査）

処理区	調査 果数	日焼け発生率※1				重症果※2 発生率
		0	1	2	3	
黒区	10	40%	30%	30%	0%	30%
白区	10	10%	20%	50%	20%	70%
対照区	10	20%	10%	60%	10%	70%

※1 日焼け程度：0無、1軽、2中、3多

※2 程度が2以上のものを重症果とした。

写真2 発生程度別 果肉障害



程度2

程度3

表2 被覆資材による果肉障害発生率の違い（満開後176日調査）

処理区	調査 果数	果肉障害発生率※1				重症果※2 発生率
		0	1	2	3	
黒区	10	10%	60%	20%	10%	30%
白区	10	10%	30%	30%	30%	60%
対照区	10	20%	40%	30%	10%	40%

※1 果肉障害発生程度：0無、1軽、2中、3多（写真3参照）

※2 程度が2以上のものを重症果とした。

満開後60日から被覆資材を施用した。程度2以上を重症果（写真2）としたとき、満開後176日での日焼けの重症果率は黒区が30%と対照区と白区の70%より40%低かった（表1）。また、果肉障害の重症果率は黒区が30%と対照区の40%と白区の60%より10～30%低かった（表2）。

このことから、遮光率の高い黒の被覆資材を使用することで、重度の日焼け及び果肉障害に対し、一定程度の軽減効果が確認された。

○ 今後の方向性

本試験は単年度の試験であったため、年次変動性を確認する必要がある。今後、にっこの高温障害に対して、他の対策技術（かん水や樹勢強化等）についても、関係機関と連携しながら継続的に検討していく。

実施機関：下都賀農業振興事務所経営普及部

実施場所：小山市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315